

# パフォーマンス評価による「指導と評価の一体化」の取り組み

埼玉県立朝霞高等学校 春日井 優

要旨 今年度から高等学校においても実施された新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得だけでなく、その知識・技能を活用できる思考力・判断力・表現力を育むことも求められている。これらの能力を含めたさまざまな能力を、パフォーマンス評価により把握し指導に活かす授業実践を行った。その授業実践を紹介するとともに、授業実践についての考察も行う。

## 1. パフォーマンス評価

今年度から高等学校においても新学習指導要領による授業が開始された。この新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することが求められている。さらに、思考力・判断力・表現力の育成が求められている<sup>(1)</sup>。

従来から行われている客観テストでは、知識や技能は比較的測りやすいが、思考力・判断力・表現力を測ることは難しい。このような背景から、小中学校を中心に、パフォーマンス評価(performance assessment)を活用した授業実践<sup>(2)</sup>が行われている。

パフォーマンス評価とは、「ある特定の文脈のもとで、様々な知識や技能などを用いて行われる人のふるまいや作品を、直接的に評価する方法」である<sup>(3)</sup>。すなわち、実際に何かをやらせてみて(パフォーマンスさせてみて)、直接的に学力を評価しようとするものである。パフォーマンス評価では、パフォーマンス課題(performance task)を与えて解決・遂行させて評価するという手順によって行われる。

ここで、パフォーマンス課題とは、さまざまな知識やスキルを総合的に活用する複雑な課題である。具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する課題のことである<sup>(4)</sup>。

## 2. 学習評価

ここで評価についての考え方を確認したい。日本語では、単に「評価」と表現しているが、英語では「評価」に相当する語として「evaluation」、「assessment」がある。これらの語は、教育学者や論文等の著者によって、若干の定義は異なるが、「evaluation」は数値や点数などにより価値を同定されるものである。また、「assessment」は点数なども含まれるがそれだけではなく、質的に表現され次の学習に示唆を与えるものである。パフォーマンス評価では、「学校や教師が、学習指導や学習活動にいかせるために学力の状態を把握する

こと」が第一の目的であること<sup>(4)</sup>から、評価の在り方として「assessment」としての評価を行うものである。(以下、「評価」は「assessment」としての評価を示すものとする。)

ここで、パフォーマンス評価は多くの場合ルーブリックを用いて行われるが、評価手法として表1のようにルーブリックを用いない評価もある<sup>(5)</sup>。これらの評価も組み合わせることにより、多面的な評価を行うことができる。

表1 ポートフォリオ活動での学習の評価手法

	学習者自身による	学習者相互・教師による
ルーブリックを用いる	自己評価 self-assessment	相互評価 peer-assessment
ルーブリックを用いない	内省 reflection	アドバイス advice

## 3. 授業実践

### 3.1 授業の概要

科目 社会と情報

単元 情報社会の課題とモラル  
情報セキュリティの確保  
(パスワードによる個人認証)

時数 5時間

1時限 個人認証についての講義

2～4時限 パフォーマンス課題

5時限 振り返り

この授業を行う直前に、コンピュータ室のユーザ認証の方法を学習し、生徒自身でパスワードの設定を行った。

### 3.2 パフォーマンス課題の設定

本授業において設定したパフォーマンス課題は次のとおりである。

課題:「パスワードを保護することが重要である」ということを、多くの人に伝えるようなパンフレットをA4の紙1枚(片面でよい)を作成しなさい。このとき、単に「保護が重要」であることを書くだけではなく、他人に漏れた場合の危険性、パス

